第２回日本高度実践看護学会学術集会
プログラム

会　　期：2026 年 6 月 6 日（土）・7（日）

テ　ー　マ：高度実践看護の道標
―実践・教育・研究で描く新たなビジョン―

学術集会長：石川 幸司
（北海道科学大学 保健医療学部 看護学科
急性・重症患者看護専門看護師）

大会プログラム

集会長講演　第1会場（大ホール）

6月6日（土）10:00-10:40

高度実践看護の未来を描く
―実践・教育・研究をつなぐ新たな道標―

座長：東　めぐみ　　順天堂大学 保健看護学部 医療看護学研究科

○石川　幸司
北海道科学大学 保健医療学部 看護学科

基調講演　第1会場（大ホール）

6月6日（土）13:40-14:40

わが国の高度実践看護の歩みと今後に期待するもの

座長：石川　幸司　　北海道科学大学 保健医療学部 看護学科

○中村　惠子
札幌市立大学

教育講演

教育講演1　第2会場（小ホール）

6月6日（土）14:10-15:10

Patient Journeyに学ぶ本当の“患者中心”とは

座長：菅原　美樹　　札幌市立大学

○山口　育子
認定NPO法人 ささえあい医療人権センター COML

教育講演2　第2会場（小ホール）

6月6日（土）15:20-16:20

高度実践看護師と看護管理者の協働
―視点の違いを力に変えて看護の可能性を広げよう―

座長：田中　いずみ　医療法人渓仁会 手稲渓仁会病院

○武村　雪絵
東京大学医学部附属病院

教育講演3　第2会場（小ホール）

6月7日（日）9:30-10:30

研究力と実践力をつなぐ　DNPの役割と展望

座長：佐藤　直子　　聖路加国際大学 / 東京ひかりナースステーション

○吉田　俊子

聖路加国際大学大学院 看護学研究科

教育講演4　第1会場（大ホール）

6月7日（日）11:10-12:10

看護実践モデル開発への道
―研究プロセスと看護実践への応用―

座長：宇都宮　明美　関西医科大学 看護学部 看護学研究科クリティカルケア看護学領域

○片岡　弥恵子

聖路加国際大学大学院 ウィメンズヘルス・助産学

教育講演5　第1会場（大ホール）

6月7日（日）12:20-13:20

高度実践看護師に求められるコンピテンシーと教育

座長：藤原　由佳　　清水メディカルクリニック

○萱間　真美

日本看護系学会協議会理事 APNグランドデザイン委員長 / 国立健康危機管理研究機構 国立看護大学校

シンポジウム

シンポジウム1：高度実践看護の道標　―それぞれの立場から語る「高度実践看護とは」―　第1会場（大ホール）

6月6日（土）10:50-12:20

座長：藤野　智子　　聖マリアンナ医科大学病院
　　梅田　恵　　株式会社緩和ケアパートナーズ

診療看護師(NP)が担う高度実践看護の役割と価値
○永谷　創石
帝京大学医学部附属病院 外傷センター / 帝京大学 医療技術学研究科看護学専攻

高度実践看護の実装と広がり―救急・集中治療領域における高度実践看護と看護管理の実践―
○上澤　弘美
社会福祉法人同愛記念病院財団 同愛記念病院

老人看護領域における高度実践看護を考える
○西山　みどり
有馬温泉病院

大学教員で専門看護師の立場から実践と教育と社会貢献を中心に
○前澤　美代子
山梨県立大学

シンポジウム2：高度実践看護師の育成と未来を考える　第1会場（大ホール）

6月6日（土）14:50-16:20

座長：森　一直　　愛知医科大学病院 NP部
　　市原　真穂　　千葉県立保健医療大学 看護学科

高度実践看護師の育成
―地域社会および教育の現状を踏まえ魅力ある持続可能なカリキュラム構成とその実装について―
○長内　さゆり
天使大学 看護栄養学部 看護学科 看護栄養学研究科看護学専攻

看護管理者の経験を生かしたがん看護専門看護師の育成
○渡邉　眞理
湘南医療大学 保健医療学部 看護学科 / 湘南医療大学大学院 保健医療学研究科保健医療学専攻

臨床現場における高度実践看護師育成の実装―管理者の立場からAPNを育て、活かし、評価する―
○葛西　陽子
手稲渓仁会病院 看護管理室

高度実践看護師の社会実装を見据えた診療看護師教育
―教育・実習・臨床をつなぐ育成基盤の構築―
○忠　雅之
東京医療保健大学大学院 看護学研究科

シンポジウム3：高度実践看護のアウトカム　―ナラティブと科学の融合によるAPNの価値証明―　第1会場（大ホール）

6月7日（日）9:30-11:00

座長：長坂　桂子　　京都橘大学 看護学部
東　めぐみ　　順天堂大学 保健看護学部 医療看護学研究科

急性期領域におけるAPNの臨床判断と代理意思決定支援
○樅山　定美
獨協医科大学

高度実践看護の価値：人々の健康を支えるアドボカシー
○木村　千尋
雲南市立病院

慢性腎臓病患者が自分自身で決める力を支えるAPNの役割―透析非選択患者への介入から―
○植木　博子
公立福生病院 腎臓病総合医療センター 看護部

遺伝看護専門看護師による高度看護実践の価値やアウトカムとは何か？
―不可視な価値と、可視化できるアウトカム―
○大川　恵
聖路加国際病院

シンポジウム4：Academic Nursing Practiceの実装　―臨床・教育・研究の分断を超えた連携モデル―　第2会場（小ホール）

6月7日（日）10:40-12:10

座長：武用　百子　　大阪大学大学院 医学系研究科
長田　暁子　　近畿大学 看護学部

臨床の小さな気づきをエビデンスへつなぐAcademic Nursing Practiceの実装
○坂木　孝輔
東京慈恵会医科大学 医学部 看護学科

Academic Nursing Practiceを創造する力―APNにおける知の共有と研究実践の循環―
○本田　和也
純真学園大学大学院 保健医療学研究科看護学専攻 診療看護師（NP）コース

専門看護師の実装を可視化するには―アンケート調査結果から考える連携モデル―
○和田　由樹
聖隷クリストファー大学

Academic Nursing Practiceにおける実践・教育・研究をつなぐ取り組み
―大学と臨床のダブルアポイントメントの経験から―
○井沢　知子
京都大学大学院 医学研究科

シンポジウム5：政策と組織をつなぐ高度実践看護　―持続可能なAPNモデルの構築に向けて―　第1会場（大ホール）

6月7日（日）13:30-15:00

座長：藤田　冬子　　神戸女子大学大学院 看護学研究科
寺岡　征太郎　帝京大学 医療技術学部 看護学科

地域看護専門看護師が目指してきたこと
○山田　雅子
聖路加国際大学大学院 看護学研究科

人口減少地域における診療看護師（NP）の実践と地域医療ケアモデルの構造化
―co-managementと意思決定支援を基盤として―
○伊藤　健大
訪問看護ステーション ウェルビー

高度実践から組織実装、そして普遍化へ―高度実践を組織の標準へ変えるAPNの役割―
○河野　佐代子
慶應義塾大学 看護医療学部

政策と臨床をつなぎ、組織を変える実践知の専門職をめざして
○萩原　綾子
地方独立行政法人神奈川県立病院機構 本部事務局

パネルディスカッション

パネルディスカッション1：APNが認知されるためのはじめの一歩　―組織内における役割確立に向けた戦略―　第2会場（小ホール）

6月6日（土）10:50-12:20

座長：田中　久美　　公益財団法人筑波メディカルセンター 筑波メディカルセンター病院
岡村　英明　　NTT東日本札幌病院 診療支援部 診療看護師室

CNS不在の組織における活動の基盤形成に向けた取り組み―鳴らないスマホを鳴らすために―
○山北　紗静
NTT東日本札幌病院 ICU

専門看護師が新たな組織で活動する道程
○山田　琴絵
JA北海道厚生連 旭川厚生病院

他者との相互作用から立ち上がるAPNの役割形成プロセス―センスメイキングの視点から―
○渡部　大地
医療法人渓仁会 手稲渓仁会病院

組織ニーズと専門性をつなぐ―CNSとしての実践と看護管理者としてのAPN活用の視点―
○岡本　充子
社会医療法人近森会

パネルディスカッション2：CNSとNPが語る高度実践看護の最前線　ー事例から学ぶエビデンスと協働のかたちー　第6会場（講堂）

6月6日（土）14:50-16:20

座長：西村　ちえ　St. Luke's Clinic Ala Moana
　　樽松　久美子　北里大学病院 救命救急・災害医療センター 救命救急病棟

演者：鶴田　理恵　大阪公立大学医学部附属病院 看護部
　　春名　寛香　北播磨総合医療センター 看護キャリア開発支援室
　　森本　景子　独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立西神戸医療センター
　　原　光明　株式会社ORINAS 訪問看護ステーションオリナス

パネルディスカッション3：私たちAPNは何を「予防」しているのか？　ー予測的アセスメントと予防的介入が医療と社会を支えるー　第6会場（講堂）

6月7日（日）11:15-12:45

座長：荒井　知子　杏林大学医学部付属病院
　　山岸　暁美　コミュニティヘルス研究機構 / 慶應義塾大学 医学部 公衆衛生学教室

総合内科における高度実践看護師の予測的アセスメント及び予防的介入が支える「つながる予防」に向けた実践
○向井　拓也
洛和会音羽病院

急性期における予測的アセスメントと“未然に防ぐ”看護実践
○井上　真奈美
社会医療法人孝仁会 札幌孝仁会記念病院

したい生活ができなくなることを予防するAPNと管理者の働き
○伊波　早苗
社会医療法人誠光会

慢性疾患看護専門看護師による予防的実践の特性―外来看護における広義の予防とその構造―
○戸沢　智也
獨協医科大学 看護学部 / 獨協医科大学病院 看護部

パネルディスカッション4：臨床と研究をどう架橋していくか？ ―Evidence ⇄ Practice の循環をつくる高度実践看護― 第2会場（小ホール）

6月7日（日）13:30-15:00

座長：米田　昭子　そよぎハート＆ライフクリニック 湘南平塚
津田　泰伸　聖マリアンナ医科大学 看護部 TQM室

実践を語り続けることの意味
～実践の拠りどころとしての「看護の教育的関わりモデル」とともに～
○井上　智恵
京都済生会病院 看護部

DNPコースで培ったスキルを活かして臨床現場の質改善に挑む
―国産DNP第1号の経験から―
○井出　由美
昭和医科大学大学院 保健医療学研究科臨床ケア開発学領域 / 昭和医科大学病院 総合周産期母子医療センター 新生児部門

高度実践看護師による「臨床」と「研究」の架橋を実現する組織体制の構築
○黒澤　昌洋
愛知医科大学大学院 看護学研究科

高度実践看護師による臨床と研究の架橋
―エビデンスに基づくヘルスケアと普及・実装研究の知見から
○友滝　愛
東京大学大学院 医学系研究科社会連携講座 ナーシングデータサイエンス講座

パネルディスカッション5：誰もがケアラーの時代到来 ―地域共生社会×APNが描く幸せのかたち― 第6会場（講堂）

6月7日（日）13:30-15:00

座長：鹿内　あずさ　北海道文教大学 医療保健科学部 看護学科
伊藤　真理　大阪医科薬科大学 看護学部

今一度捉え直す【地域共生社会とはなにか】
○佐藤　直子
聖路加国際大学 / 東京ひかりナースステーション

地域にひらくケアの場づくり～コミュニティエンパワメントの実践
○三輪　恭子
大阪公立大学

誰も取り残さず、笑顔で暮らせる地域へ―浦河町の未来予想図から考える―
○野島　弘基
医療法人社団同行会 エマオ訪問看護ステーション

地域みんなでタスクシフト・シェア
～恵庭市のとりこぼさないとりのこさない支援体制づくりの一員として～
○樋口　秋緒
社会医療法人北晨会 介護老人保健施設恵み野ケアサポート

学会企画　第６会場（講堂）

6月6日（土）14:00-14:30

学会発！高度実践看護の言語化から書籍発刊までの挑戦！

座長：武用　百子　大阪大学大学院 医学系研究科
演者：宇都宮　明美　関西医科大学 看護学部 看護学研究科
筑井　菜々子　公益社団法人地域医療振興協会 JADECOMアカデミー NP・NDC研修センター
平原　優美　公益財団法人 日本訪問看護財団
戸沢　智也　獨協医科大学 看護学部 / 獨協医科大学病院 看護部

交流集会

交流集会１　第４会場（302）

6月6日（土）10:50-12:20

第１弾：地域看護・在宅看護CNSの日々の実践を共有しよう！
～地域に暮らす人たちと家族のための看護を考える～

企画代表者・座長：鹿内　あずさ　北海道文教大学
演者：石岡　道子　医療法人渓仁会 はまなす訪問看護ステーション
行田　菜穂美　聖マリアンナ医科大学病院
新家　静　高槻市保健所

交流集会２　第５会場（305）

6月6日（土）10:50-12:20

高度実践看護の未来を拓く「道標（みちしるべ）」の共創
～専門職としての歩みを分かち合い、次なる一歩を繋ぐ対話の場～

企画代表者：森田　恭平　みんなのかかりつけ訪問看護ステーション
演者：藤野　泰平　みんなのかかりつけ訪問看護ステーション

交流集会３　セミナー会場（403）

6月6日（土）13:40-14:40

「高度実践看護」提供者を育成するカリキュラムについて語ろう

企画代表者・座長：川原　千香子　帝京大学 シミュレーション教育研究センター
演者：関口　奈津子　帝京大学 医療技術学部研究科看護学専攻 高度実践看護学診療看護師（NP）コース
増山　純二　令和健康科学大学 臨床シミュレーションセンター
八木　街子　自治医科大学 看護師特定行為研修センター

交流集会4　第3会場（301）

6月6日（土）14:50-16:20

共同意思決定(SDM)のコンピテンシーを基礎教育とAPN継続教育でつなぐ教育設計

企画代表者：池田　達弥　東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科
座長：西村　礼子　東京医療保健大学
演者：池田　達弥　東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科
黒澤　昌洋　愛知医科大学 看護学部
津田　泰伸　聖マリアンナ医科大学病院 看護部 / TQM室
齋藤　大輔　愛知医科大学病院 看護部

交流集会5　第4会場（302）

6月6日（土）14:50-16:20

教育・研修委員会企画

高度実践看護の「技」とは何か？―相互理解から生まれる新たな価値の創出―

座長：岩田　友子　地方独立行政法人 桑名市総合医療センター
増田　誠一郎　志太DM・内科クリニック
演者：中村　祥英　静岡県立総合病院
若狭　竜太　日本医科大学千葉北総病院
糸川　紅子　日本赤十字東北看護大学

交流集会6　第4会場（302）

6月7日（日）9:30-10:30

政策提言委員会企画
アウトカムを見据えた高度実践看護師(APN)実践を制度、政策につなげよう

座長：伊波　早苗　社会医療法人誠光会
鶴屋　邦江　医療法人実風会 新生病院
演者：藤田　冬子　神戸女子大学大学院 看護学研究科
萩原　綾子　地方独立行政法人神奈川県立病院機構 本部事務局
森　一直　愛知医科大学病院 NP部 / 愛知医科大学 看護学部
井沢　知子　京都大学大学院 医学研究科

交流集会7　第5会場（305）

6月7日（日）9:30-11:00

【進学希望者・大学院生・若手 CNS/NP 対象】
At the Vanishing Point of Possibility ―あなたの一歩が、未来をかえる―

企画代表者・座長：坂本　貴紀　京都大学医学部附属病院
演者：大森　泉　クローバースマイル訪問看護ステーション
近藤　穂尭　聖路加国際病院
永谷　創石　帝京大学 医療技術学研究科
池田　達弥　東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科

交流集会8　第4会場（302）

6月7日（日）10:45-12:10

CNSあり方検討委員会企画
CNSの30年を振り返り、未来のCNSの役割を拓く

座長：佐藤　直子　聖路加国際大学 / 東京ひかりナースステーション
演者：梅田　恵　株式会社緩和ケアパートナーズ
寺岡　征太郎　帝京大学 医療技術学部看護学部
岩本　大希　ウィル株式会社

交流集会9　第5会場（305）

6月7日（日）12:20-13:50

高度実践看護検討委員会企画
CNSとNPの対話から探究する高度実践看護の共創

座長：長坂　桂子　京都橘大学
演者：植田　恵　株式会社緩和ケアパートナーズ
西山　みどり　有馬温泉病院
本田　和也　純真学園大学
黒澤　昌洋　愛知医科大学
森　一直　愛知医科大学病院
西村　ちえ　ハワイ・聖ルカクリニック

学会主催セミナー

学会主催セミナー１：倫理・意思決定支援　セミナー会場（403）

6月6日（土）10:50-12:20

倫理的(モラル)レジリエンスを高めるセルフマネジメント
～“心のもやもや”の傾向を知り、改善につなげるスキルを身につけよう～

司会：井上　真奈美　札幌孝仁会記念病院
講師：神田　直樹　北海道医療大学
ファシリテーター：井上　真奈美　札幌孝仁会記念病院
伊藤　聖美　医療法人渓仁会 手稲渓仁会病院

学会主催セミナー２：教育　セミナー会場（403）

6月6日（土）14:50-16:20

APNが行うスタッフ教育の極意(コツ)！

司会：鹿内　あずさ　北海道文教大学
平山　さおり　KKR札幌医療センター
講師：部川　玲子　北見赤十字病院
路川　恵利加　総合病院 土浦協同病院
樋口　秋緒　医療法人北晨会 介護老人保健施設 ケアサポート

学会主催セミナー３：実践　セミナー会場（403）

6月7日（日）9:50-10:50

高度実践看護　言語化のコツ！

司会：桑村　直樹　医療法人渓仁会 手稲渓仁会病院 看護部
講師：米田　昭子　日本高度実践看護学会理事
事例提供者：太田　愛　医療法人渓仁会 手稲渓仁会病院 看護部

学会主催セミナー４：コンサルテーション　セミナー会場（403）

6月7日（日）11:10-12:40

Help！コンサルテーション！

司会：村本　好孝　株式会社ここから
講師：川添　恵理子　北海道医療大学 看護福祉学部 看護学科
作田　麻由美　小樽市立病院 看護部

学会主催セミナー５：調整　　セミナー会場（403）

6月7日（日）13:50-14:50

専門看護師の調整力を可視化する：事例で紐解く実践のプロセス

司会：井口　久美　天使大学 看護栄養学部
講師：牧野　夏子　札幌市立大学 看護学部
石岡　明子　北海道大学病院 看護部
中村　美乃生　独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター HCU
片田　将司　社会医療法人厚生会 中部国際医療センター 診療部 救急科

共催セミナー

共催セミナー１　　第２会場（小ホール）

6月6日（土）12:30-13:30

患者・医療者にとってより良いカテーテルとは？～留置後のPICC管理を考える～

座長：菅野　かおり　学校法人大阪医科薬科大学 看護キャリアサポートセンター 認定看護師教育課程
○田中　千晶
愛知医科大学病院 NP部

○松橋　詩織
JCHO東京高輪病院 診療部循環器内科

共催：日本ベクトン・ディッキンソン株式会社

共催セミナー２　　第５会場（305）

6月6日（土）12:30-13:30

ミッドラインカテーテルの新たな可能性
困難静脈患者に対する血管アクセス戦略
―患者体験（PX）を踏まえたミッドラインカテーテルの臨床的位置づけ―

座長：石岡　明子　北海道大学病院 看護部
○渡部　大地
医療法人渓仁会 手稲渓仁会病院 看護部 麻酔科集中治療部

共催：テルモ株式会社

共催セミナー３　　第６会場（講堂）

6月6日（土）12:30-13:30

高度実践看護師によるRRSの臨床実装―EWSを活用した判断と調整―

座長：増山　純二　令和健康科学大学 看護学部看護学科 実践看護学 / 令和健康科学大学大学院 実践看護学コース（NP養成プログラム）
○森　一直
愛知医科大学病院 NP部 / 愛知医科大学 看護学部

共催：フクダコーリン株式会社

一般演題口演

優秀演題口演　　第３会場（301）

6月7日（日）11:40-12:30

座長：河野　伸子　横須賀共済病院 看護管理科
　　山下　いずみ　江別市立病院 看護部
審査員：田口　裕紀子　札幌医科大学 保健医療学部 看護学科
　　神田　直樹　北海道医療大学 看護福祉学部 看護学科

AO-1　うつ病回復期にある人の服薬治療の共同意思決定のプロセスと看護支援
○江波戸　和子
帝京平成大学 ヒューマンケア学部

AO-2　倫理的風土づくりに関するアクションリサーチ（第一報）―２年間の取り組みと課題―
○工藤　光生[1)]、今野　麻衣子[2)]、佐藤　博昭[2)]、伊藤　結貴[2)]、佐藤　宏幸[2)]、納富　理絵[2)]、伊藤　めぐみ[2)]
１）秋田大学大学院 看護学研究科 保健学専攻 看護学講座、２）秋田大学医学部附属病院

AO-3　複数領域の専門看護師・認定看護師・特定行為研修修了者により編成された重症化予防チームラウンドの意義―高度急性期病院でのニーズと対応の実態―
○川村　優紀子、武井　千寿、小林　大祐、有泉　凱、宮久保　朱実、森澤　恵美子
地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立中央病院

AO-4　CLABSI発生増加を契機としたICUカテーテルラウンドによる教育の実践報告
○新山　和也
埼玉医科大学国際医療センター

口演１：高度実践１　　第３会場（301）

6月6日（土）11:00-12:00

座長：牧野　晃子　聖路加国際大学大学院 看護学研究科急性期看護学
　　岩本　大希　WyL株式会社

O1-1　診療看護師（NP）および専門看護師（CNS）の高度実践看護としての協働実践の特徴
○田中　千晶[1)]、平尾　由香[2)]、高林　拓也[1)]、森　一直[1)]
１）愛知医科大学病院 NP部、２）愛知医科大学病院 看護部

O1-2　ICUサバイバーの心理・精神的体験の時間的変容：質的統合
○森　まどか[1,2)]、武用　百子[1)]
１）大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻、２）社会医療法人清恵会 清恵会病院

O1-3　重症心身障害児・医療的ケア児に関わる小児看護専門看護師が行う看護実践の特徴
○仁宮　真紀[1)]、鈴木　千琴[2)]、高　真喜[3)]、黒田　光恵[4)]、市原　真穂[5)]
１）旭川荘療育・医療センター、２）済生会横浜市東部病院、３）浜松市医療的ケア児等支援センター、４）筑西いけだクリニック、５）千葉県立保健医療大学

O1-4　母親の告知への揺らぎを捉えACPへつなげた意思決定支援の一例
○池田　定代、田村　美紀
順天堂大学医学部附属静岡病院

O1-5　回復が見込めない脳出血患者の家族にみる「曖昧な喪失」への支援
―リエゾンナースによるコンサルテーションの省察―
○宮原　慶江
聖路加国際病院

O1-6　AYA世代がん患者への支援に向けた院内システム構築におけるOCNSの役割
○根本　さくら
日本医科大学付属病院

口演2：教育1　第6会場（講堂）

6月6日（土）11:00-12:00

座長：樽松　久美子　北里大学病院 看護部
櫻庭　奈美　埼玉医科大学 保健医療学部 看護学科

O2-1　急性期総合病院における看護職員リーダー層を対象とした「患者・家族からの暴力防止、対応研修」による意識の変化と課題
○小池　直哉、梅野　直美、重松　淳子、奥津　啓子、芝　淳宏
日本赤十字社 武蔵野赤十字病院

O2-2　専門看護師が実践するラダー支援研修「臨床推論」の初年度評価
○大田　麻美、奥野　史子
日本赤十字社 伊勢赤十字病院

O2-3　小さなチームで大きな変化を生むCritical Care Outreach Team（CCOT）活動の成果と今後の課題
○加賀　真理、境　加奈子、金田　八葉美、宮永　恵子、山下　涼子、岸本　博、福永　博子
兵庫県立はりま姫路総合医療センター

O2-4　A病院集中治療室に配属されたスタッフに対する教育体制構築への取り組み
○矢吹　麗奈、栗山　千秋、稲月　成美、大関　武、松田　武賢
筑波大学附属病院

O2-5　NP教育課程修了後研修における教育担当者配置の意義
研修者アンケートからみた教育的実践
○高林　拓也、森　一直
愛知医科大学病院

O2-6　精神看護専門看護師による「存在の承認」を軸とした教育的介入の検討
～精神看護学実習における学生の内発的動機づけと治療的自己の形成に着目して～
○平井　尚子、大﨑　千恵子、田中　直
昭和医科大学大学院 保健医療学研究科

口演３：多職種連携・調整１　第５会場（305）

6月6日（土）13:40-14:40

座長：鶴屋　邦江　医療法人実風会 新生病院
高橋　奈美　札幌市立大学

O3-1　未告知下にある若年心不全患者の療養場所選択における自律支援とCNSの調整
○小野　孝夫
日本鋼管病院

O3-2　意思決定困難となった身寄りがいない高齢者の多重課題の解決に向けた在宅看護専門看護師の思考と実践
○早川　未来
東邦大学医療センター佐倉病院

O3-3　CNSの早期調整介入により短期間で住み慣れた地域に復帰できた一例
○古屋　曜子
順天堂大学医学部附属静岡病院

O3-4　経口摂取再獲得と気管カニューレ管理習得の支援した自宅退院に向けた高度実践看護師の多職種連携調整
○杉山　理恵
日本医科大学付属病院

O3-5　救急外来と訪問看護の連携による再入院予防の取り組み
○岡崎　航
みんなのかかりつけ訪問看護ステーション札幌北

O3-6　臓器移植医療に関わる診療看護師（NP）の実践能力
○片田　将司[1)]、岩瀬　塔真[1)]、浅野　好孝[1)]、齋藤　史朗[1)]、山田　実貴人[1)]、黒澤　昌洋[2)]、森　一直[3)]
1）社会医療法人厚生会 中部国際医療センター 診療部 救急科、2）愛知医科大学大学院 看護学研究科、3）愛知医科大学病院 NP部

口演４：高度実践２　第５会場（305）

6月6日（土）15:20-16:20

座長：渡邉　直美　東京女子医科大学病院 がんセンター緩和ケア室・看護部教育
渡部　大地　医療法人渓仁会 手稲渓仁会病院 看護部

O4-1　夜間ラウンドでの対応が効果的であった事例
○福山　雄三、福川　摩耶
日本医科大学多摩永山病院

O4-2　総合消化器外科に所属する診療看護師の実践と役割―周術期診療における高度実践の実際―
○沼田　悠希[1)]、稲葉　一樹[2)]
1）藤田医科大学病院 FNP室、2）藤田医科大学 先端ロボット・内視鏡手術学

O4-3　災害派遣体制と院内災害対応体制の一体化とその強化を目的とした新設組織形成の取り組み
○寺内　文平
一般財団法人神奈川県警友会 けいゆう病院

O4-4　人工呼吸下頸髄損傷患者の意思疎通を支えるために、退院後訪問を通じてカフ上発声法の継続を実現した1症例
○山田　亨[1,2]、山崎　香代[1,3]、久保　亜希子[1]、小原　雅子[1]
1）東邦大学医療センター大森病院 看護部 看護管理室、
2）東邦大学医療センター大森病院 呼吸ケアチーム、3）東邦大学医療センター大森病院 嚥下チーム

O4-5　診療看護師（NP）によるCare Process Modelsを活用した深部静脈血栓症への対応実践報告
○大津　昌成[1,2]、永谷　創石[1,2]、松井　健太郎[1,2]、渡部　欣忍[1,2]、河野　博隆[2]
1）帝京大学医学部附属病院 外傷センター、2）帝京大学 医学部 整形外科学講座

O4-6　多職種連携による院内発症脳卒中患者の早期画像診断への新しい取り組み
○川名　由美子[1]、石元　玲央[2]、吉田　賢作[2]
1）東京都立広尾病院 看護部 診療支援室、2）東京都立広尾病院 脳神経外科

口演5：システム変革・その他　　第3会場（301）

6月7日（日）9:30-10:20

座長：鶴田　理恵　　大阪公立大学医学部附属病院
　　牧野　夏子　　札幌市立大学 看護学部

O5-1　研修期間中から修了後支援までを含めたがんゲノム医療コーディネーター育成の実践報告
○中村　由唯、渡邉　純子、今井　美佳
佐久総合病院 佐久医療センター

O5-2　身体拘束最小化に向けた老人看護専門看護師と看護部長の協働
―師長・主任教育を基盤とした組織的取り組みの実践―
○河原　教代
香川県厚生農業協同組合連合会 滝宮総合病院

O5-3　急性期病院における身体拘束最小化チームの活動報告
～一般病棟における転倒転落予防のための拘束を減らす取り組み～
○宮澤　初美、古屋　曜子
順天堂大学医学部附属静岡病院

O5-4　精神看護専門看護師を含む看護職らによる事例検討会の意義
―特定非営利活動法人による活動の評価から―
○那須　典政[1]、宮地　普子[2]
1）医療法人社団五風会 さっぽろ香雪病院、2）北海道医療大学 看護福祉学部 看護学科

O5-5　外来化学療法室の抗がん剤ばく露の実情調査により改善策を見出す
○片岡　ヤス子
東京大学医学部附属病院

口演6：看護倫理・意思決定支援　第6会場（講堂）

6月7日（日）9:50-10:50

座長：向井　未年子　愛知県がんセンター 看護部
鎌田　未来　関西医科大学

O6-1　「思いやケアを語る会」に参加したスタッフの気持ちの変化
○柳生　侑希
恩賜財団母子愛育会 総合母子保健センター愛育病院

O6-2　難治性精神疾患に対する精神展開剤療法(PAT)導入に向けた高度実践看護師の役割：文献レビュー
○中谷　春香
所属なし

O6-3　倫理カンファレンスにおける専門看護師のファシリテーション実践
○荒木　絢子、伊藤　聖美、相澤　加奈、石井　奈奈、川西　亜紀江、佐土根　岳、葛西　陽子
医療法人渓仁会 手稲渓仁会病院

O6-4　身体拘束解除における代替手引書の有用性の検討～第２報～
○田本　奈津恵[1,2]、寺井　智佳子[1]、河原　彩[1]、百成　ますみ[1]、松本　喜代美[1]、若森　紀子[1]、安井　正英[2]
1）独立行政法人国立病院機構 七尾病院 看護部、2）独立行政法人国立病院機構 七尾病院 呼吸器内科

O6-5　がん専門病院の外来看護師による意思決定支援の構造―内容分析による検討―
○河村　奈緒、岡和田　真里奈、下山　美智子、的場　めぐみ、福﨑　真実
静岡県立静岡がんセンター

O6-6　神経難病患者の症状進行に伴う医療チームでの意思決定支援
○阿久津　美代
自治医科大学附属病院 看護部

口演7：役割拡大　第3会場（301）

6月7日（日）10:35-11:25

座長：吉森　容子　済生会新潟県央基幹病院
平井　克城　名古屋市立大学 医学部 医学研究科 共同研究教育センター・高度実践看護教育研究センター

O7-1　エイズ治療拠点病院の外来におけるHuman Immunodeficiency Virus（以下、HIV）看護師の実践状況と課題
○杉野　祐子[1]、大金　美和[1]、照屋　勝治[1]、上村　悠[1]、後藤　智己[2]、柿沼　章子[2]、岩野　友里[2]、花井　十伍[3]、潟永　博之[1]
1）国立健康危機管理研究機構（JIHS）国立国際医療センター、2）社会福祉法人 はばたき福祉事業団、3）特定非営利活動法人 ネットワーク医療と人権

O7-2　胸膜癒着療法を支える診療看護師（NP）の活動
○長谷部　亮、政木　佑司、中塚　真里那、遠藤　誠
山形県立中央病院　呼吸器外科

O7-3　新たな所属施設におけるがん看護専門看護師10年目の役割開発のプロセス
○佐藤　香奈
岩見沢市立総合病院

O7-4　北陸専門看護師会における役割開発支援の取り組み
―経験10年以上のCNSによる実践報告会を通して―
○内村　恵里子[1)]、長　光代[2)]、松本　友梨子[3)]
1）石川県立中央病院、2）おれんじ訪問看護ステーション、3）福井県済生会病院

O7-5　ICU領域パッケージ取得施設における特定行為日導入の効果
―特定行為件数および院内依頼体制の変化―
○三浦　広佑
医療法人 名古屋徳洲会総合病院

口演8：教育2　第5会場（305）

6月7日（日）11:10-12:00

座長：坂木　晴世　国際医療福祉大学大学院
青柳　道子　札幌市立大学 看護学部

O8-1　就労移行支援事業所における精神看護専門看護師の教育的介入
○宇野　泉
医療法人社団 ハートフル川崎病院

O8-2　専門・認定看護師協働によるACP普及・啓発への取り組み
～院内・地域・市民を対象としたACP教育研修の実践～
○小笠原　倖、西山　晴奈、淺倉　幸奈
成田赤十字病院

O8-3　新人看護師の成長実感と指導者の指導実践認識の経時的推移：領域別分析による３者間比較
○永井　真理子、三ツ井　菊江、木村　敬子、武村　雪絵
東京大学医学部附属病院

O8-4　診療看護師（NP）のコンピテンシーに関する日本国内研究の現状：スコーピングレビュー
○池田　達弥[1)]、西村　礼子[2)]
1）東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 プライマリケア看護学領域、
2）東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科

O8-5　老人看護専門看護師の管理実践～病棟看護管理者への教育的介入～
○鶴屋　邦江
新生病院

口演9：コンサルテーション　第3会場（301）

6月7日（日）12:45-13:35

座長：谷島　和美　神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科
梅澤　志乃　東邦大学医療センター大森病院 看護部

O9-1　複数領域の専門看護師・認定看護師・特定行為研修修了者による実践・協働のプロセス
―院内の重症化予防チームの介入により早期退院に至った症例―
○武井　千寿、宮久保　朱美、川村　優紀子、小林　大祐、宇佐美　夏美、宮下　香鈴
山梨県立中央病院

O9-2　多領域の専門看護師が協働し、コンサルテーションを受けた結果、治療方針の見直しに繋がった一例
○二瓶　啓徳、大道　美保、福島　範子
済生会横浜市東部病院

O9-3　小児緩和ケアチームに所属するがん看護専門看護師による家族ケアに難渋した症例に対するコンサルテーションの一例
○大西　祐規
島根大学医学部附属病院

O9-4　当院における家族看護コンサルテーション体制の構築
―家族看護相談用紙の導入による介入経路の可視化と運用初期の課題―
○鈴木　雅智、加藤　陽子
日本医科大学付属病院

O9-5　新規訪問看護ステーションの基盤構築における訪問看護部長の伴走型支援：所長との共創による組織管理と地域連携戦略
○森田　恭平
みんなのかかりつけ訪問看護ステーション

口演10：高度実践3　第3会場（301）

6月7日（日）13:50-14:50

座長：小川　謙　JCHO北海道病院
石浦　光世　関西医科大学

O10-1　急性期病院における終末期がん患者の望む暮らしを支える退院支援・退院調整
～慢性疾患看護専門看護師の対話と調整～
○新屋　理良[1)]、井上　真奈美[1)]、和田　悠矢[2)]
1）社会医療法人孝仁会 札幌孝仁会記念病院、2）北海道科学大学 保健医療学部 看護学科

O10-2　重症急性脳炎患児の移行を支える小児 / 急性・重症看護CNSの協働による高度実践看護
○富田　美香、齋藤　大輔
愛知医科大学病院 小児病棟

O10-3 輪状甲状靭帯切開術後の気道不安定性を有するICU患者の主体性を尊重し、持てる力を引き出した看護実践の一例

○小嶋　万里奈[1)]、坂木　孝輔[2)]
1）東京慈恵会医科大学附属柏病院 看護部、2）東京慈恵会医科大学 医学部 看護学科

O10-4 身体拘束解除につながった行動アセスメントとストーマケアの再構築の一事例
～ GCNSが中心となった多職種連携の実践～

○三浦　直子
発寒リハビリテーション病院

O10-5 女子生徒に対する皮下植込み型除細動器植え込みを選択するまでの支援

○岩瀬　明音
順天堂大学医学部附属静岡病院

O10-6 診療看護師(NP)による高齢透析患者へのポリファーマシー介入と薬剤適正化の実際
―Deprescribing frameworkを用いた多職種協働の一症例―

○中尾　昇
市立青梅総合医療センター 診療局 診療看護師室

口演11：多職種連携・調整2　　第４会場（302）

6月7日（日）13:50-14:50

座長：坂木　孝輔　　東京慈恵会医科大学 医学部 看護学科
作田　麻由美　小樽市立病院 看護部

O11-1 Ⅱ型呼吸不全を呈した終末期患者への苦痛緩和を考慮した呼吸ケア―多職種で介入した１事例

○樽松　久美子、中野　由紀子
北里大学病院 看護部

O11-2 急変前段階の気づきを臨床判断へつなぐ看護実践
―CCOTにおける急性・重症患者看護専門看護師の役割―

○島内　淳二[1)]、伊藤　博希[2)]
1）日本医科大学付属病院 外科系集中治療室、2）日本医科大学付属病院 医療安全管理部

O11-3 高度救命救急センターに搬送された患者の子どものメンタルケア

○人見　敬子[1)]、篠嶋　澪[1)]、相坂　和貴子[2)]、平川　賢史[3)]
1）札幌医科大学附属病院 看護部、2）札幌医科大学附属病院 救急医学講座、
3）札幌医科大学附属病院 小児科学講座

O11-4 マンパワーの壁を乗り越えて　小規模病院のPICC導入戦略

○塚田　美香、高地　加代子、池上　舞
みなみ野循環器病院

O11-5 急性期病院における身体拘束最小化に向けた取り組み

○黄　裕子、寺田　美奈子、蓬　久美子、金田　邦彦、新藤　良太、木下　智弘、山本　裕子、大谷　恭平
地方独立行政法人加古川市民病院機構 加古川中央市民病院

O11-6 重症心身障がい児・者におけるスクリーニングツール導入の意義
—安全な歯科医療の完遂に向けた内部プロセスの整備—
○伊藤　由香、石ケ森　友佑、大村　由記、天沼　由美子、島崎　伸子、小山　耕太郎
社会福祉法人新生会 みちのく療育園メディカルセンター

一般演題ポスター

優秀演題ポスター　　ポスター会場（401）

6月7日（日）10:35-11:15

座長：上澤　弘美　社会福祉法人同愛記念病院財団 同愛記念病院 看護部
川原　千香子　帝京大学 シミュレーション教育研究センター
審査員：田口　裕紀子　札幌医科大学 保健医療学部 看護学科
神田　直樹　北海道医療大学 看護福祉学部 看護学科

AP-1 当事者の語りの変化を導いたリカバリー志向（精神科）の訪問看護の実践
—病識の獲得を最優先としない臨床判断の一事例—
○阿部　貴子
合同会社faro訪問看護ステーションぽると

AP-2 高度実践看護師の研究活動における困難への支援のあり方
○葛島　慎吾[1,7]、松枝　美智子[2,7]、江上　史子[3,7]、松成　裕子[4,7]、増滿　誠[5,7]、
本武　敏弘[3,7]、前田　愛[6,7]
1）宮崎県立看護大学 看護学部、2）沖縄県立看護大学 看護学部、3）熊本保健科学大学 保健科学部、
4）福岡国際医療福祉大学 看護学部、5）日本赤十字北海道看護大学 看護学部、
6）昭和医科大学烏山病院, 亀田医療大学大学院 看護学研究科(博士後期課程)、
7）九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会

AP-3 多職種チームに所属する看護師のリーダー役割への自己認知とコラボレーティブ・リーダーシップとの関連
○古川　圭子
摂南大学 看護学部 看護学科

ポスター1：多職種連携・調整・その他　　ポスター会場（401）

6月6日（土）11:00-11:50

座長：村中　沙織　天使大学 看護学科
東谷　敬介　札幌市立大学 看護学部

P1-1 高齢者の爪真菌症に対する爪外用液治療の完治に向けた治療継続支援の課題と有効なケアの検討
○安部　涼子[1]、佐藤　智子[2]
1）大分県立看護科学大学 基礎看護科学講座 看護アセスメント学、
2）東京工科大学 医療保健学部 看護学科

P1-2 病棟業務において、インスリン投与・血糖値入力の一括化による業務効率化
○平井　一成、永井　美貴、藤本　悦子
福山市民病院

P1-3　がん看護専門看護師によるイギリス在住日本人女性へのブレスト・アウェアネス啓発活動
○伊久美　知佳
金沢さくら医院

P1-4　複数分野の専門看護師が協働する上で重要と考えること
―組織分析のディスカッションを通して見えてきたもの―
○山田　洋[1)]、野村　陽子[1)]、春名　寛香[1)]、藤原　由佳[1,2)]
1）北播磨総合医療センター、2）清水メディカルクリニック

P1-5　母親の希望に向き合う看護師を支える
―Scheinのプロセス・コンサルテーションに基づくFCNSの実践―
○勝又　理恵、土屋　桃花、土井　尚美
順天堂大学医学部付属静岡病院

ポスター2：看護倫理・意思決定支援　ポスター会場（401）

6月6日（土）15:20-16:00

座長：戸沢　智也　獨協医科大学 看護学部 / 獨協医科大学病院
宮岡　里衣　岡山大学病院 看護教育センター

P2-1　入院中の高齢患者のせん妄に対する生活史を活かした看護実践
―床屋経験からの髭剃りを通して―
○神田　藍[1)]、前澤　美代子[2)]
1）山梨大学医学部附属病院 看護部、2）山梨県立大学

P2-2　CNS主導による「倫理で看護を語る看護師の育成」に向けた基盤作り
○三好　あや、石村　愛、飯田　真実子
関西電力株式会社 関西電力病院

P2-3　A病棟におけるアドバンス・ケア・プランニング支援体制構築
○森木　有加里、長谷川　浩美
旭川赤十字病院

P2-4　急性期総合病院における領域の異なる専門看護師が協働する倫理チームの活動と評価
○大島　誠、桐田　しおん
地方独立行政法人 総合病院 国保旭中央病院

ポスター3：教育　ポスター会場（401）

6月7日（日）9:30-10:20

座長：江波戸　和子　帝京平成大学 ヒューマンケア学部
菅　侑也　国際親善総合病院 看護部

P3-1　看護学生を対象としたポケットエコーを用いた浮腫の観察技術習得のための教育プログラムの評価
○今方　裕子、大岩　奈央、大澤　美菜実、佐藤　由愛、關谷　薫
公立小松大学 保健医療学部 看護学科

P3-2　急性期総合病院A病棟における倫理的感受性育成の取り組み
○岩崎　多津代、高村　里実
国立病院機構 東京医療センター 看護部

P3-3　退院支援看護師の実践能力向上にむけた教育介入の効果―教育前後の比較―
○小﨑　綾子
順天堂大学医学部附属浦安病院

P3-4　専門看護師認定者数の地理的分布の分析
○友滝　愛[1)]、奥野　史子[2)]、津田　泰伸[3)]、松本　佐知子[4)]、岩谷　美貴子[5)]、森岡　典子[6)]、中谷　英仁[7)]、池田　真理[8)]、林田　賢史[1)]
1）東京大学大学院 医学系研究科 ナーシングデータサイエンス講座、
2）伊勢赤十字病院 看護部 精神看護専門看護師、
3）聖マリアンナ医科大学病院 看護部 / TQM室 急性・重症患者看護専門看護師、
4）日本赤十字看護大学 さいたま看護学部 老人看護専門看護師、5）岡山大学病院 看護部、
6）国立保健医療科学院 疫学・統計研究部、
7）名古屋市立大学 医学研究科 医療統計学・データサイエンス分野、
8）東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻 看護管理学 / 看護体系・機能学分野

P3-5　専門看護師実習に関する文献マッピング：実習の実態と課題の整理
○櫻庭　奈美[1)]、横井　弓枝[2)]、小島　真奈美[3)]、村上　由美子[3)]
1）埼玉医科大学 保健医療学部 看護学科、2）天理大学 医療学部 看護学科、
3）埼玉医科大学 国際医療センター

ポスター4：高度実践1　　ポスター会場（401）

6月7日（日）11:30-12:10

座長：中谷　美紀子　日本医療大学 保健医療学部 看護学科
中村　江衣　日本医療大学

P4-1　A病院一般病棟におけるせん妄発症の実態と関連指標の推移
○柴原　加奈、奥野　史子
日本赤十字社 伊勢赤十字病院

P4-2　国内の嚥下造影検査に用いられる検査食に関する研究の実態と課題：スコーピングレビュー
○那須　真弓[1)]、川添　紀子[2)]
1）亀田医療大学 看護学部、2）日本医科大学付属病院

P4-3　診療看護師(NP)主導の多職種調整機能の臨床的意義　重度脊髄損傷患者の回復を支えた一例
○石井　雅人、森　一直、高林　拓也、小岩　大介
愛知医科大学病院 NP部

P4-4　食道がん術後に術後合併症を発症した女性がん患者とのケアリングパートナーシップ
○時岡　忠伸
東京都済生会中央病院

ポスター５：高度実践２　　ポスター会場（401）

6月7日（日）12:50-13:30

座長：渡辺　美和　　日本赤十字北海道看護大学 看護学部
　　川名　由美子　東京都立広尾病院

P5-1　令和６年能登半島地震の応急仮設住宅における実践報告
―住民の役割経験を活かした男性の社会参加促進に向けた取り組み―
○野原　正美[1)]、酒井　彰久[2)]、清水　誉子[2)]、佐々木　麻未[3)]、佐藤　大介[2)]
1）東北福祉大学 健康科学部 医療経営管理学科、2）福井大学学術研究院 医学系部門 看護学領域、
3）日本赤十字社 石巻赤十字病院

P5-2　精神疾患をもつ患者家族との関わりに困難感を抱く介護支援専門員との連携協働
○稲田　美香
高知大学医学部附属病院 看護部

P5-3　集中治療を要する重症妊産婦の母子面会実現に向けた専門看護師の調整と多職種協働
○田村　美紀、勝又　理恵、森田　康敬
順天堂大学医学部附属静岡病院

P5-4　感染管理認定看護師と診療看護師（NP）が行うPICC回診の現状と課題
○布目　雅博、齋場　三季
名古屋鉄道健康保険組合 名鉄病院

第２回日本高度実践看護学会学術集会 運営委員

■企画委員

学術集会長	石川　幸司	北海道科学大学
企画委員長	田口　裕紀子	札幌医科大学
副企画委員長	森　一直	愛知医科大学病院
委　　員	荒井　知子	杏林大学医学部付属病院
	伊藤　真理	大阪医科薬科大学
	宇都宮　明美	関西医科大学
	岡村　英明	NTT東日本札幌病院
	長内　さゆり	天使大学
	菅原　美樹	札幌市立大学
	田中　いずみ	手稲渓仁会病院
	永谷　創石	帝京大学医学部附属病院
	東　めぐみ	順天堂大学
	藤野　智子	聖マリアンナ医科大学病院
事務局長	福島　綾子	北海道科学大学
事務局員	橋本　直弥	北海道科学大学
	和田　悠矢	北海道科学大学

■プログラム委員

委 員 長	田口　裕紀子	札幌医科大学
委　　員	伊藤　聖美	手稲渓仁会病院
	神田　直樹	北海道医療大学
	永谷　創石	帝京大学医学部附属病院
	牧野　夏子	札幌市立大学
	森　一直	愛知医科大学病院
	山下　いずみ	江別市立病院

■セミナー運営委員

井口　久美	天使大学
石岡　明子	北海道大学病院
伊藤　聖美	手稲渓仁会病院
井上　真奈美	札幌孝仁会記念病院
太田　愛	手稲渓仁会病院
川添　恵理子	北海道医療大学
神田　直樹	北海道医療大学
桑村　直樹	手稲渓仁会病院
作田　麻由美	小樽市立病院
鹿内　あずさ	北海道文教大学
寺澤　友	札幌厚生病院
中島　和英	北海道がんセンター
中村　江衣	日本医療大学
平山　さおり	KKR札幌医療センター
牧野　夏子	札幌市立大学
村本　好孝	株式会社ここから
渡部　大地	手稲渓仁会病院
渡辺　美和	日本赤十字北海道看護大学

■実行委員

石貫　智裕	札幌医科大学
井上　真奈美	札幌孝仁会記念病院
大森　桃子	札幌清田病院
小川　謙	JCHO北海道病院
川村　真澄	札幌厚生病院
神田　直樹	北海道医療大学
木村　恵美子	札幌医科大学
佐藤　知史	愛知医科大学病院
能見　真紀子	所属なし
泥谷　朋子	東都大学
福田　智子	砂川市立病院
八幡　梨恵	恵佑会札幌病院
吉田　奈美江	天使大学
渡部　有希	市立札幌病院

協賛一覧（50音順）

第２回日本高度実践看護学会学術集会の開催にあたり、多くの皆様からご協力いただきました。ここに深く感謝の意を表します。

学術集会長　石川　幸司

共催セミナー

テルモ株式会社
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社
フクダコーリン株式会社

企業展示・書籍展示

エア・ウォーター・メディカル株式会社
株式会社 紀伊國屋書店 札幌本店
株式会社キュアメド
国立健康危機管理研究機構国立国際医療センター
辻本メディカル株式会社
ニプロ株式会社
日本シグマックス株式会社
バクスター・ジャパン株式会社
株式会社VIPグローバル
フクダコーリン株式会社
株式会社メルシー
Wonder Drill株式会社

プログラム集広告

株式会社医学書院
カーディナルヘルス株式会社
株式会社Gakken
株式会社ここから
助野株式会社 札幌支店

ホームページバナー広告

エルゼビア・ジャパン株式会社
株式会社日総研出版

幕間スライド広告

株式会社メディカ出版

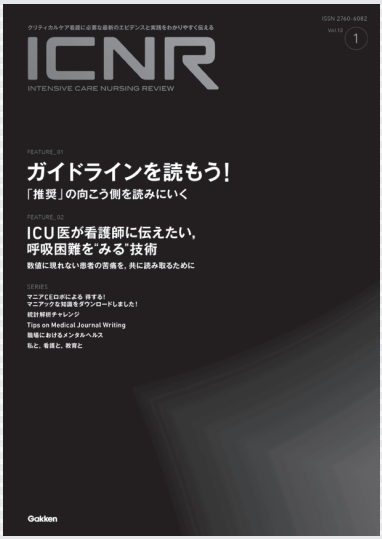
（2026年４月30日現在）

ICNR

INTENSIVE CARE NURSING REVIEW

クリティカルケア領域 No.1ジャーナル

ICUナース 必携の情報誌



ICNR（Intensive Care Nursing Review）は、クリティカルケア看護の実践のためのエビデンスに基づいたグローバルスタンダード知見を、正しく、わかりやすく伝える情報誌です。本誌を通してクリティカルケア看護の最新知識を知り、臨床での実践につながるよう解説していきます。

これからのケアの方向性を提案します

毎号テーマを設定、クリティカルケア看護に必要な、最新のエビデンスと実践をわかりやすく解説。

Gakken

株式会社Gakken メディカル事業部
〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8 Mail：med-hanbai@gakken.co.jp

すべての人々に質の高いEOLケアを届けるために

ELNEC-Jクリティカルケアカリキュラムで学ぶ

エンド・オブ・ライフ・ケア

End-of-Life Nursing Education Consortium
Japan Critical Care Curriculum

編集

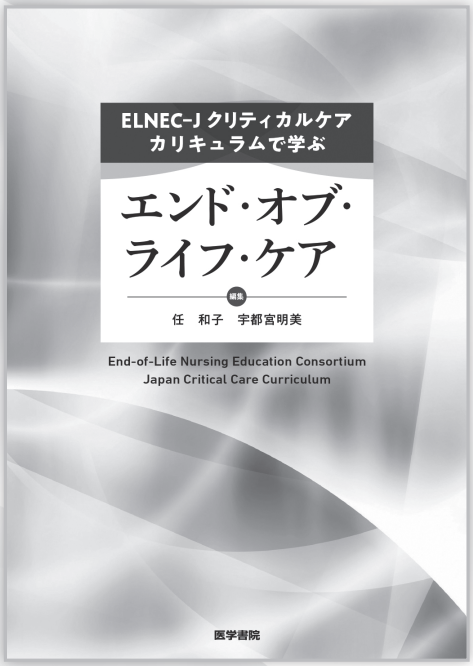
任　和子
京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻
先端中核看護科学 教授

宇都宮明美
関西医科大学看護学部
クリティカルケア看護学領域 教授

ELNEC-JCC 看護師教育プログラムのモジュールに基づく構成で、クリティカルケア領域における EOL ケアを体系的に解説。EOL ケアに関する基本的な考え方や倫理的視点、クリティカルケア領域特有の状況を踏まえた看護実践、看取りに至るまでの患者・家族への関わり、多職種連携の考え方などについて示す。さらに、巻末の付録では、具体的な状況を設定した 4 つの事例を提示。EOL ケアについて考え、省察するのに役立つ。

目次

序論
1 クリティカルケア領域における エンド・オブ・ライフ・ケア
2 痛みのマネジメント
3 症状マネジメント
4 倫理的実践
5 文化とスピリチュアリティ
6 コミュニケーション
7 悲嘆
8 看取り
付録 クリティカルケア領域における エンド・オブ・ライフ・ケアを 考えるための 4 事例



●B5　頁 240　2026 年　定価：3,520 円
（本体 3,200 円＋税 10%）［ISBN978-4-260-05297-9］

医学書院　〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23［WEBサイト］https://www.igaku-shoin.co.jp

株式会社ここから

北海道札幌市から全国へ発信
精神科看護の専門家

精神科看護の専門家が
あなたの現場へ

看護実践・コンサルテーション・教育研修・メンタルヘルスサポート

コンサルテーション
対応困難事例への新しい視点・考え方をご提案。外部の専門家が関わることで新しい風を

教育・研修
精神科看護・SST・臨床倫理・コミュニケーション研修。自施設に合わせた内容で

メンタルヘルスサポート
職員・新人看護師のメンタルヘルスケア。外部看護師だから話せることがあります

看護実践
訪問看護・精神科デイケア・一緒に実践しながらのコンサルテーションも対応

精神科病院での豊富な経験を活かし独立
臨床教育・困難事例への関わり・メンタルヘルスケアを展開

▼ ▼ 詳細はこちら ▼ ▼

訪問看護ぱるもい's

(株)ここから

北海道精神科看護ch

代表取締役　村本好孝（むらもとよしたか）

精神科専門看護師　精神科認定看護師　認定看護管理者　ＳＳＴ普及協会認定講師

☎ 090-8905-0666　✉ otoiawase@manabi.in

Argyle™ Fukuroi

Argyle™ Fukuroiは、静岡県袋井市にある袋井R&Dセンター、袋井工場に
開発・製造を由来する製品のブランドです。
袋井工場では1974年の竣工以来、数多くの製品を製造し
日本の医療の現場にお届けしてまいりました。
国内の医療従事者の声を反映し、日本の患者さんに適した製品設計で
日本の医療の安全を追求します。



Argyle™ Fukuroi
SMAC プラス
医療機器承認番号
21900BZX00953000



Argyle™ Fukuroi
PICC キット
医療機器承認番号
21900BZX00862000



Argyle™ Fukuroi
PI カテーテル キット
医療機器承認番号
20700BZZ01224000



Argyle™ Fukuroi
Midline カテーテル
医療機器承認番号
30400BZX00215000

お問い合わせ先
カーディナルヘルス株式会社
TEL 0120-917-205
cardinalhealth.jp

©2026 Cardinal Health. All rights Reserved.
CARDINAL HEALTH、Cardinal Healthロゴ、ARGYLEは
Cardinal Healthの商標又は登録商標です。

CardinalHealth™



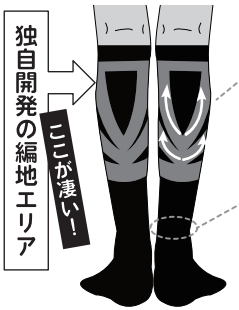
Think Safety
日本の医療の安全を追求します

※着脱時間には個人差がございます。

履くのは6秒※!脱ぐのは3秒※!

“ラクに履けて、ラクに脱げる”
新発想の着圧ソックス。 らく圧

「らく圧」って
どんな靴下? 詳しくは▶
「らく圧」の凄さを
ぜひご確認ください!



医療従事者様限定
ショッピングサイトは▶
(会員登録をお願いします)
※特別価格でご購入が出来ます。

会員続々増加中! リピーター多数!

SUKENO
助野株式会社
富山県高岡市上伏間江1番地
www.sukeno.co.jp